

学校評価に対する対応策

(1) 中間的な評価を実施し見直しを行ったこと

ア 感染対策

- ・始業式、終業式は2学年分の生徒が体育館に集まり、残りの1学年分の生徒は教室でリモート視聴をした。偏りがないように、リモートによる実施は学年ごとにかわるがわる行った。
- ・感染対策や熱中症対策を徹底させた上で、学校祭や生徒会行事を実施した。学校祭では、来校者を生徒1家族につき2名までとし、学年ごとに来校時間を設定することで、密にならないようにした。また、クラスマッチでは、競技場所に手指消毒液を設置し、競技開始前と終了後の消毒を徹底した。
- ・2学年の修学旅行は、現地の感染状況等を考慮し、行き先を変更した。
- ・マラソン大会は、校内の感染状況を考慮して中止した。

イ 校則の見直し

- ・生徒、教職員、保護者が一堂に会し、三者対話会を開いた。それぞれの立場による意見交換を行い、その後の校則見直しに繋がったものもあった。

ウ ICTの活用

- ・1人1台与えられているタブレットを、授業や家庭学習で使用する場面を設け、積極的な活用を促した。自主的にタブレットを活用し、学習理解を深める生徒も見られた。
- ・学校評価や授業評価の回答をオンライン方式に変更し、タブレットを活用した。

エ 総合的な探究の時間

- ・普通科の探究発表会を9、12、3月に開催した。発表に対して生徒がお互いにコメントを書くことで、次の発表に生かすことができた。
- ・3年生が1、2年生をサポートする機会を初めて設けた。研究での失敗談等、自分たちがやってきたことを3年生が自ら後輩に伝えた。

オ 欠課時数が多い生徒への指導

- ・年間授業時数の7分の1、5分の1の時数が欠課になった時点で生徒と保護者へ通知し、出席を促す指導をシステム化した。

(2) 評価結果に基づく今後の改善方策等

ア 課外について

- ・3年生対象の土曜講座では、進学先決定のため、10月以降参加者が激減した。進学後に向けた学力の維持・向上のためにも、生徒の学習意欲低下を防ぐ必要がある。

イ 家庭学習について

- ・適量の課題を課し、家庭学習の習慣化を図る。また、タブレットを活用し、生徒にとって課題への取組と提出がしやすい工夫をする。

ウ 学校行事の見直しと授業時間の確保について

- ・行事内容の縮小や準備時間の短縮、行事間の関連づけや統合を図り、授業時間を確保する。

エ 進学関連の情報提供と進学希望者のための指導について

- ・普通科、商業科の両科で4年制大学への進学希望者が増えている。各教室に配られる定期購読の受験情報誌と、本校で発行している「進路情報」の活用を工夫する。また、外部講師を招き、生徒の関心や意欲を喚起するとともに、進学についての知識を深められるようにする。

オ 検定取得について

- ・検定を取得することで、生徒は自己肯定感を高めている。商業科で実施されている検定対策の課外では多くの生徒が意欲的に参加し、結果を残している。普通科でも個人の力を伸ばせるようにする。